

史跡案内(五所八幡～小竹)

古賀史跡案内ボランティア編

平成15年08月01日

I 五所八幡～小竹地区史跡めぐりコース

岳越山(修験道場跡) A →勘慶様 B →五所八幡宮宮司歴代の墓 c →大日如来(野田若狭ゆかりの屋敷) D →おひの水 E →経塔さま F →青柳高等小学校跡 G →五所八幡 1-1 →長泉寺 I →願成寺跡 J →色姫の墓 K → 5 1番札所 L → 4 9番札所 M 三郎天神 N →青面金剛 O → 5 2番札所 P

II 五所八幡～小竹地区

1. 岳越山(修験道場跡)【A】

① 岳越山山頂(愛宕神社跡)：もと愛宕神社があったが明治44年7月、五所八幡宮境内に移された日、山伏の修験道場として山籠もりしていた。

⇒ 市内の修験遺跡：本山系(天台宗)峰入りの遺跡は岳越山と窓内の2ヶ所、小字に宝満がある。当山系(真言宗)には五家(阿部、鍋嶋、村上、田原、高澄各家)が記録に残っている。

2. 勘慶様【B】

① 立花家家臣野田若狭の墓碑。墓碑銘『天正11年甲中年/龍照院快雲勘慶居士/3月14日』

⇒ 天正11年は癸未、甲申は天正12年(1584)である。

② 野田若狭は色姫との交誼も噂されている。色姫の没年は天正12年3月24日。

③ (古老からの言い伝え)昔立花城の御典医であったお方が立花城落城時に神田まで落ちのびて来られ、里人を病氣から救って下さったありがたい人で大事に祀らなければならぬと。殊に60年位前のこと、夏に赤痢が大流行した時、住民が祀つることを疎かにしていた為、その祟りでこんなことになったのではないか、と。それ以来一時途絶えていた祀りごとを毎年8月7日(7月7日の一月遅れ)神田の住民全員が、老若男女全員が集まってお籠りをして、大切に祀るようになった。そして現在も毎年真夏の暑さの中、ずっと続いている。

④ 若狭の父、野田(中野)右衛門大夫： 右衛門大夫は戸次鑑連に呼応し立花鑑載(第7代立花城主。 参照：青柳宿“首なし塚”)を裏切った。鑑載は自刃した時、“野田右衛門裏切られたことの悔しさよ”と叫び、形相すさまじく、腹一文字に搔き切って果てたという。

⑤ 若狭の子孫は農民となり長く青柳に居たらしく同家は立花宗茂の竹龍院の坪付(つぼつけ、所領目録)の古文書を代々保持していたという。

3. 五所八幡宮司歴代の墓【C】

① 宮司の歴代の墓。

4. 大日如来像【D】

①平成2年古賀市指定文化財

②大日堂： 野田屋敷・大日屋敷などと言われる果樹園の奥の小高い場所にある。

③像の概要： 像高76.2cm、台座16.3cm。本体は桧材、寄木造りで前後三材を矧ぎつけ、台座は樟材一木造り

④昭和62年の修理： 篤志家の熱意によって奈良で本式の古色仕上げの修理を行い頭頂の高髻はその時に補われた。頭部から墨書も発見された。

⑤体内の墨書銘： 『大日本国筑/糟屋郡青柳/大日覺者/文明7年(1475)乙未4/大願主大神朝臣野田閑/作者從雲慶9代/弟子正』、頭部からは『惟方、惟次、宮若』

⑥野田若狭の宅： 筑前国続風土記拾遺に、「大日如來坐像の座下の銘に。にの地に中野右エ門大夫の子野田若狭の宅ありき・」とあるがこの銘は現在は読めない。

5. おひの水【E】

①古くから御神井として尊ばれ、御供井とされていた。また如何なる旱魃にも減水することがなかったので雨乞いの神事も行われていた。

6. 経塔さま【F】

①一字一石塔： 小石一個に一字を墨や朱で書き經典を写したもの甕に入れ土中に埋め、その上に碑を立てた。鎌倉時代の末から江戸時代にかけて広まった

②【説明板】寺浦の経塔さまはいつの頃からか風邪引きの時甘酒を供えて平癒を祈願することで知られている。誰がいつ何のためにこのような事をしたのか知る由も

ないが、50年ほど前、川の改修工事の際、法華教の文字が一つの玉石に一字づつ記されているのが沢山出てきたのでそれを集め大甕に入れ塔の下に埋め戻されている。

⇒ 医王寺(筵内)、東前寺(薬王寺)にも一字一石塔あり。

7. 青柳高等小学校跡 【 G 】

① 明治9年以来長い歴史と優れた教育実績を持っていたが昭和16年国民学校令が施行され、各学校とも初等科・高等科を併置するようになり青柳高等小学校は廃校となった。

8. 五所八幡宮 【 H 】 (別紙)

① 祭神： 神功皇后・応神天皇。玉依姫。墨江三前神・保食神

② 由緒： 創建は、たびたびの兵火で建物や記録が消失した為はつきりしないが、青柳郷が管崎宮の荘園であった嘉禎3年(1237)以前と考えられる。市内随一の神社で昔は両臼屋・宗像三郡の宗社で祈願所となっていた。戦国争乱のころの立花家や江戸時代の黒田家の尊崇も厚かった。

9. 長泉寺 【 I 】

① 宗派・本尊： 宗派)浄土真宗西本願寺派。 本尊)阿弥陀如来。 山号)発華山

② 縁起： 発華山と称し、博多方行寺の末寺。正保元年(1644)創建。

10. 願成寺跡 【 J 】

① 五所八幡宮の天正11年の造立の棟札から、願成寺が禅宗の寺院で、その住職は三晋字珪であったことがわかる。また八幡宮の別当寺であったことが考えられる。

② 石瓦の清水家の文書から、三晋字珪和尚が天正19年(1581)に筑後に移るので、その前後までは存在したと考えられる。

③ 現在小字地名に願成寺があり、そのかつての所在地を示している。地蔵堂があり、また小高い畠の中に不完全ながら五輪が三基のこっている。

11. 色姫の墓 【 K 】 (別紙)

① 宗像大宮司氏貞の妹。大友との和睦のため立花道雪の側室となる。後、小金原の戦いで宗像氏との関係が悪化し、それを苦にして自殺したと言われる。

12. 51番札所 【 L 】 (資料)

① 本尊： 釘抜き地蔵尊

13. 4 9番札所 【 M 】 (資料)

① 本尊： 観世音菩薩

堂前には「不空羈索觀世音菩薩」との板書あり。

14. 三郎天神 【 N 】

① 祭神： 菅原神

② 由来： 神社の建立時期や由来は明らかでないが小竹では「天神様」と呼ばれ親しまれていた。

③ 祭事： 4月と7月に「日籠り」が行われている。田植えの安全と豊作、家族の健康を祈願する催しである。

15. 青面金剛像 【 O 】

① 享保3年(1718)戊戌7月13日銘。

② 三眼六臂、悪鬼を踏みつけ、半裸の女身の髪の毛を掴み、上部に日月等を描いている。見事な石像である。

⇒ 青面金剛像は古賀には2基残存する。他の1基は米多比(村上氏宅内)にある木造青面金剛立像で江戸時代の作である。

⇒ 青面金剛： 病魔・悪鬼や風雪の難を除く神。身色は青で二臂・四臂・六臂像がある。忿怒形で身体に蛇が巻きつき、怒髪が上に向く。中世以降は道教の思想と混じり庚申信仰の本尊となる。

⇒ 庚申信仰： 庚申の日の夜、睡眠中に三尸という虫が体内から抜け出し天帝にその人の罪を報告するので、それを防ぐ為庚申の日は徹夜するというもので庚申会。庚申待ちという。60年毎に供養塔を建て青面金剛(神道では猿田彦)を祀つる。なお申にちなんで目口耳を閉じる三猿神も庚申信仰の本尊となった。

16. 5 2番札所 【 P 】 (資料)

① 本尊十一面觀音